

市長から市民のみなさんへ

88

山形市市長 白井 博文

離職者のための相談窓口をご利用ください

通常、ほとんどの業務について、お休みをいただく年末年始ですが、昨年は12月30日まで離職者等に対する再就職・生活支援の受付業務を市役所で行いました。いつもの年とは違う、つらい気持ちで年末を過ごすことになった方々のお役に少しでも立てればと関係各課が連携しての取り組みでしたが、年明け以降も2ページ記事にありますように、引き続き窓口を設けていますので、突然の離職により、当面の生活にお困りの方は、ご遠慮なさらずに、まずは関係各課へご相談していただきたいと思えます。

世界中を巻き込んでの不況の"大波"は底なしの様相を示し、どれほどの規模か見定めることすら難しいようです。市の緊急の課題は前述の雇用問題ではありますが、やがて行政各方面への影響は避けられないでしょう。国、県の動きと連携しながら、迅速かつ柔軟に対応し、どんな"大波"も乗り越えることができるように体制を整え、総力をあげて取り組んでいくつもりです。

「対話の日」を休止します

市民のみなさんがお持ちの市政に関するご意見、ご提言を直接お聞きしたいと、平成17年の7月にスタートした「対話の日」を今月をもって休止します。みなさんご存知の通り、4月には市長選挙が行われる予定で、そういった中で今後、開催される「対話の日」において、市政に関する意見交換の場という本来の趣旨からそれ

て、政治的な話題が取り上げられることを懸念し、今回の休止の決断を行った次第です。

これまで、市内各地で70回行ってきた「対話の日」でしたが、参加人数の多寡に関係なく、どの会場でも市民のみなさんの新市の市政への関心の高さは十分過ぎるほど肌で感じることができました。そして、その"熱意"は難題に直面し、頭を抱えることの多かった私のふさがちな気分を再び新鮮なものにしてくれる、まさに"元気の源"となったことは確かです。

会場で承った要望、陳情のすべてに対して、ご期待に添えることができず、その点については、申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、膝を交え、お互いの顔を見ながら語り合うという試みを3年半続けてきたことで、「市民のみなさんと市役所との距離を少しでも縮めたい」という当初の目的は果たすことができたのではないかと、休止を決断した今、率直な感想を抱いています。

会場準備から奔走していただいた自治会長さん、そしてご参加していただいたみなさんへ、この場を借りて、改めて感謝の気持ちを表させていただきます。

対話の日

【19:00から】



1月22日(木)下村東公会堂

※ 対話の日は、

1月22日をもって休止します。

「地域医療体制検討委員会」から提言書が提出されました



▲市長に提言書を手渡す砂川委員長

地域の実情に即した医療体制について検討を重ねてきた「地域医療体制検討委員会」(委員長:砂川 功氏 小野田市医師会会長)から12月25日、提言書が市長に提出されました。

「夜間、救急の安易な受診を控えてもらうための啓発活動」「保健・福祉・医療の連携」「夜間診療体制の整備」が明記された提言書の提出を受け、市は医療機関とのなお一層の連携を深め、「安心安全を守るまちづくり」の実現に向け取り組んでいきます。

【問い合わせ先】健康づくり推進課 ☎ 71-1814